



機械工学科  
5年 山口健太郎

一関高専の所在地一関市は、岩手県の南端に位置し、市内に巖美溪や梟鼻溪などの観光地があり、北隣は金色堂で有名な中尊寺のある平泉町です。このような風光明媚な立地の中、一関高専では、機械工学科、電機情報工学科、制御情報工学科、物質化学工学科の4学科および生産工学専攻、物質化学工学専攻の2専攻からなる専攻科、合計約800名の学生が学んでいます。この一関高専を学生主導で行われる学校行事を通して学生の視点から紹介します。

本校の二大校内行事は「校内体育大会」と

「高専祭」です。どちらの行事も学生から選出された実行委員会が中心となって進行します。学生同士でアンケート調査や会議を開き、教員の方に顧問・相談役をお願いしながら、行事の内容を決定していきます。私も4年生の時に体育大会実行委員長を務めました。自分たちで大きなお金を動かし、企画を考案していくという作業は大変なことでしたが、無事に終わらせることが出来た時の喜びは何事にも変えられないものとなりました。

「校内体育大会」は、毎年5月の下旬に2日間に渡り、専攻科生を含む全校学生および教職員によりクラス対抗で行われます。競技はサッカー、ソフトボールなどの屋外競技と、卓球、バレーボールなどの屋内競技、あわせて8競技が行われ、各競技の順位を点数化して総合順位を決めます。試合のルールは混乱を避けるために若干簡易的なものになっていますが、本来の競技規則に則ったものを使用し、審判は部活動に所属している学生が務めます。この大会が行われると、特に低学年では各クラスの結束が強くなるようです。

「高専祭」は、10月下旬か11月上旬の2日間に渡って開催され、校外からのたくさんのお客様が来校します。実際に校内を見ていただくだけではなく、地元のお店街の方々にスポンサーになってもらうことで地域と学校の繋がりを深めるという目的もあります。高専祭では、学生が企画した模擬店や文化系クラブの展示・演奏、学科が企画する体験実験などが行われるほか、5年前からは水泳部（私も所属しています）によるシンクロナイズド・スイミングの公演が行われるようになりました。保護者・地域の皆様にご好評をいただき、今年も2日間で延べ2000人を超える来場者を記録し、大成功で終わらせることができました。

最後に私が会長を務める学生会についても紹介します。学生会役員は、毎年11月下旬に選挙を行い選出します。選考基準は特に存在せず、私も体育大会実行委員長をしていた際に、学生会との繋がりができたことがきっかけで誘いを受け、学生会長に立候補することになりました。学生会活動の目的は、学生の活動をより活発にすることで、保護者から預かった学生会費を予算とした部活動や学校行事の支援も大きな活動の一つです。役員は2週間に1回、定例集会を開き、各クラスおよび各担当の仕事の状況を

確認し合います。また、毎年1月には学生会を中心として各クラス・部活動の代表者が集まる研修会を開き、その年度の反省と次年度計画の立案も行います。

ここまで紹介した他にも、一関高専には学生が中心となった活動が数多く行われており、一関高専は自主性と学生の自立を促す素晴らしい学校だと私は考えます。この学校で得た貴重な経験を生かし、できる限りの社会貢献ができるようにこれからも学生一丸となって努力していきたいと思います。



機械・電気システム工学専攻  
1年 安田 優也

私が日頃感じている八戸高専について紹介します。

早速ですが、まずは八戸高専の「八戸」について。八戸高専は青森県八戸市にあります。八戸市は、太平洋を望む青森県の東南部に位置する臨海工業都市です。近年は物流を軸に港湾としての機能を強化し、加えて高速交通体系の整備を進めて、北東北の国際物流拠点として躍進しています。本校は、JR新幹線八戸駅から車で5分、JH八戸インターチェンジから車で5分という日本一交通の便利が良い高専です。

八戸高専の教育方針とは何か。本校には「Sincerity（誠実）、Enterprise（進取）、Cooperation（協調）」の3つの校訓があります。この校訓のもと、豊かな人間性の涵養、工学知識・技術の習得、地域社会への貢献、コミュニケーション能力の習得といった学習・教育目標が設定されています。加えて、学科・専攻別にそれぞれ頂上を頂き、底辺の層が厚く学科相互がつながり合う基礎重視の教育が行われています。本校ではこれらの教育方針を、校舎から眺められる八甲田山脈をイメージした「連峰型教育」と称しています。

八戸高専の特色の一つとして学生寮が挙げられます。約450名の寮生が日常生活を共にしています。先輩後輩の関係や、コミュニケーションの取り方などを各々の寮生が実際に経験して、そのむずかしさや真の意味をよく理解します。4、5年生は指導寮生として低学年寮生の生活を手助けし、時には寮則を守るよう注意を促します。「寺子屋」と呼ばれる指導寮生主体の有志活動もあります。その活動場所には、慣れない寮生活や勉強への不安を抱えた寮生が集まり、先輩が相談相手になったり勉強を教えたりして後輩の生活を支援します。また、アジア、フランスから来た外国人留学生も寮で生活しているため、身近に異文化交流の機会があり、自然に国際感覚が身につきます。

周辺地域との結びつきの強さも、八戸高専が誇ることでできるアビリティです。八戸市周辺には地域企業や米軍基地などがあります。企業の第一線で活躍する本校OBや八戸市長を講師にお願いし、講義形式の授業「田面木塾」を実施しています。更に、学生支援GPのもと、周辺地域や海外の卒業生による講演会も行っています。様々な講師の方の社会生活で培われた知識や経験談を通して、企業の現状や地域の動向、そして講師の方の人間力を直に学びとることができます。また、愛好会活動から始まった米軍基地内のエンドグレン高校との交流は、今では低学年生全体を巻き込んだものに発展しています。相互訪問での授業参加や、ロボコン・プロコン・エコランカー等を通して、国際的な場面での協調性や積極的な自己表現力を鍛えることができます。

最後に八戸高専が最も活気づくイベント、高専祭を紹介します。高専祭は10月に開催され、昼間は学科公開展示、部活展示、音楽部ライブ、ファッションショーなど、数多くのイベントを行っています。友達や先輩、後輩はもちろん、先生や職員の方々、祭りを楽しみに来てくれるお客さんを巻き込んで一緒に祭りを盛り上げます。夜には前夜祭・後夜祭があり、体育館の特設ステージでカラオケ・瞬芸・抽選大会が行われます。高専祭の最後を飾るのは、間近で打ち上げられる迫力満点の花火です。秋夜空の下、寒いと文句を言いながらも皆が花火を見に来る光景からは、物珍しさだけじゃなく、祭りを最後まで楽しもうという、どこか暖かみのある協調性を感じます。

以上が、私が日頃感じている八戸高専です。関心をもっていただけた方は、ぜひ、一度八戸高専へお越しください。楽しい祭りを一緒に創りましょう。



八戸高専

一関高専